

エコたわしを見せてくれた石巻市牡鹿地区の女性たち＝今年7月



東日本大震災で被災した石巻市牡鹿地区の女性ら12人が手編みする「お魚(形)エコたわし」プロジェクトが前進した。仙台市の支援者が製品を買い取っていたが「支援者に頼り切りでは甘えになる」と、材料のアクリル毛糸入手から販路開拓まで自ら担う運営組織を11月に設立した。名称はおしかエコたわし工房海だより(斉藤準子代表)。浜の女性の底力を伝える製品の1部は今月ドイツに渡るという。

「エコたわし」自立へ 販路も開拓

同工房事務局長の遠藤信子さん(62)による高橋市の教会を通じ購入。メンバーは50〜70代が中心で、自宅や車で行われる企業の研修会を津波で流された人が後に販売する。多い。1人5000円の出資金を出し工房を設立した。エコたわしは大きくして値段を2個5000円から1個3000円に変更。1週間一人20〜50個製作する。携帯電話の汚れを拭けるストラップも考案した(1個300円)。

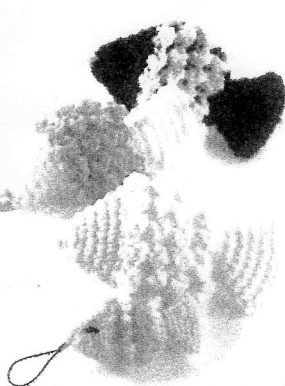
運営組織を設立

石巻・牡鹿の女性グループ
74個(171万円)になり、メンバーに一定の収入と生活の張りをもたらし、再起への助走をつけ、工房設立となった。遠藤さんは「2人の支援を無にしないよう工房を長く続けたい。寄せられる協力がありがたい」と話している。連絡は遠藤さん(090・7930・6073)。

【小原博人】

お魚エコたわし

魚のまち・鮎川の、もう一つの魚



手のひらに収まりのいい大きさで、手触りも柔らかい。作っているわたしたちもかわいくって、という愛情のこもったエコたわしたち

問合せ先 / オシカエコたわし工房 海だより
石巻市十八成浜坂ノ上6-5
代表: 斉藤準子 事務局: 遠藤信子
TEL.0225-45-2562
TEL.090-7930-6073
携帯メール m.cecillia.n@docomo.ne.jp
パソコンメール m_cecillia-n@yahoo.co.jp

小さな浜が点在する牡鹿半島では、9割の人が家を失った。半島の突端にある鮎川が、震災宮城から発信する「石巻・牡鹿からのエコたわし」の現地拠点。かわいい魚の形のエコたわしを企画したのは仙台の高橋由美子さんと、友人で高校音楽教諭の鈴木優子さんと、作り方を教えるエコたわし講習会から始まった。研修期間から高橋さんが1個200円で買い取り、2個セット500円で草のルートで販売。5月に始まったプロジェクトは、皆さんの熱心さが一つ一つのクオリティを高めながら、10月中旬までに約7200個が買い取られたそう。普段は別々の浜の仮設に住む皆さんだが、ここで知り合えたことから被災者が自らプロジェクトを引き継いで「牡鹿エコたわし工房海だより」として新たなスタートを切る。魚は形を変えながら、魚の町・牡鹿半島のもうひとつの恵みとなっていくことだろう。